ラジオを聴く

野瀬 隆平

歳を重ねるにつれて、ラジオを聴いている時間が長くなってきた。

テレビも、教養番組など見たいものはビデオにとってでも見ているが、手を動かして何かをしながら、となるとやはりラジオだ。

子供の頃は、娯楽と云えばラジオが中心であった。想い出に残る番組はいくつもある。「鐘の鳴る丘」「とんち教室」「二十の扉」「話しの泉」などなど。放送される時間を心待ちにしていた。

聴くだけではない、自分でラジオを作ったこともある。

札幌での小学生時代は工作が好きで大いに楽しんでいた。繁華街の狸小路にある模型の専門店で材料を買い集め、電気機関車を組み立てて居間にレールを敷いて走らせた。また「鉱石ラジオ」も作った。レシーバーから、小さい音ながらラジオが聞こえてきたのには感激した。

東京に出てきた後の中学の時には、秋葉原でキットを購入して真空管の５球スーパーラジオを作った。マジック・アイ付である。マジック・アイというのは、電波が正しく同調して捉えられているかを見るものだ。この作品は我が家のラジオとして茶の間で長年活躍した。テレビ放送が始まるまでは、クイズ番組や歌謡曲など、家に居ながらの娯楽の中心はラジオ。年末の紅白歌合戦も勿論ラジオだった。

高齢者となってからは、もっぱら「ラジオ深夜便」のお世話になっている。NHK の放送で午後１１時ころから翌朝５時までの番組である。

夜中に目が覚めることが多くなり、そんな時は枕元にある携帯ラジオをイヤホーンで聴いている。３時台の「日本の歌心の歌」、４時台の「明日への言葉」と、興味のある内容だとそのまま聴き続けて朝を迎えることになるが、いつの間にか再び眠りに落ちてしまうこともある。

深夜便が終った５時からのニュース番組や天気予報を聴いて、新たな一日が始まる。昼間にパソコンなどで酷使した目を休ませる意味でも、耳を使うように心がけている。

６時半になった。ラジオ体操を妻が始めたのが居間から伝わってくる。